

# ほいく・あーと・ふえすた 造形作品展&こどものためのアートワークショップ

学科・専攻  
保育学科

担当教員  
保育学科全教員



連携先

関西女子短期大学  
保育学科



## プログラム内容

保育学科では、学生が子どものことを学ぶための仕掛けとして、子どもとふれ合う機会を創っています。その仕掛けの1つ“ほいく・あーと・ふえすた”では、授業で制作した作品展示の会場に、子どもたちがアートを楽しむコーナーを設けます。学生主体で、企画、材料等の事前準備、当日の受付や誘導等の係り、ワークショップでの子どもたちへの指導・援助やお話会等を行います。学生たちは、授業で習得した知識や技能を活かして、附属幼稚園の園児さんや地域の様々な年齢の子どもと関わり、実感をもって子どもへの理解を深めていきます。

## 成果・考察

2025年11月22日(土)、保育学科の1、2年生と教職員で、子どもたちやそのご家族をお迎えしました。会場には、49組93名の子どもたちがやってきて、作ったり、描いたり、お話を聞いたり、作品を見たり、の楽しい時間を過ごしました。学生にとっては、授業での学びを活かして子どもと関わることに挑戦し、子どもや保育について理解を深める機会になりました。また、保護者の方と直接お話させていただき、子どもを大切に想う親御さんの気持ちにふれられたようです。

今後、学生が学ぶ機会でもある“ほいく・あーと・ふえすた”を継続させて、玉手山学園で附属幼稚園や地域の子どもたちがアートを楽しむ活動を重ねていきたいと考えています。

## 学生たちの作品



会場には、子どもたちや学生の笑顔があふれていました。



保育学科  
宇津木七実 教授

“ほいく・あーと・ふえすた”は、保育を目指す学生たちが、アートを介して子どもたちから学ばせてもらう場でもあります。どんな絵を描くのか？のりやはさみを使う時にどんなことに注意した方がいいか？どんな言葉かけをすると喜ぶか？等々、子どもたちの笑顔や困った姿から、多くのことを学ぶことができます。

また開催するにあたり、ゼミ活動として仲間と協力して企画準備を行うことで、学生の主体性やコミュニケーション力を養うことができます。

子どもたちの笑顔や、保護者の方からの「ありがとう」の言葉が、保育者のたまごの学生たちを励ましてくれます。保育学科一同、この活動ができることに感謝しています。



スタッフの保育学科1年生

子どもの年齢によって、活動の内容や手順を伝える言葉を選び、どこを補助すればよいのかの判断をすることが難しかったです。子どもたちが一生懸命作っている姿がとても印象的で、子どもや保護者の方のたくさんの笑顔を見ることができて、とても嬉しかったです。